

NEXT CONCERTS
》 次回東京定期演奏会

第 **754** 回

サントリーホール

2023年 **10月13日(金)** 19:00開演 プレトーク 18:30~ 両日とも
14日(土) 14:00開演 プレトーク 13:20~ プレトークあり!

【首席指揮者就任披露演奏会】



指揮: **カーチュン・ウォン**
【首席指揮者】

メゾ・ソプラノ: **山下 牧子**
女声合唱: **harmonia ensemble**
児童合唱: **東京少年少女合唱隊**

マーラー: 交響曲第3番 二短調

1回券料金 S ¥8,000 A ¥6,500 B ¥6,000 C 完売 P 合唱団席 Ys (25歳以下) ¥1,500

※障害者手帳をお持ちの方は割引がございますので、サービスセンターにお問い合わせください。

次回東京定期演奏会指揮者にインタビュー! カーチュン・ウォン 編

聞き手 八木 宏之

🎶 日本フィルハーモニー交響楽団首席指揮者就任披露演奏会へ向けて 🎶

—カーチュンさんが首席指揮者としてのスタートに選んだ作品は、マーラーの交響曲第3番です。首席客演指揮者就任披露演奏会でも交響曲第5番を取り上げたカーチュンさんですが、マーラーとの出会いはどのようなものだったのでしょうか?

—ブラスバンドでトランペットを吹いていた私にとって、マーラーの音楽は自然と自分のなかに入ってくるものでした。兵役の際に所属していた軍楽隊では、トランペットの先輩たちがウォーミングアップに交響曲第5番冒頭のファンファーレを吹いていました。これが私にとって最初のマーラー体験でした。

—マーラーは当代屈指の名指揮者でもありました。マーラーのスコアから、彼の指揮者としての哲学を感じることはありますか?

—マーラーがスコアに書き込んだ指示を見ると、彼がいかに優れた指揮者であったのかよくわかります。マーラーの指示はとても具体的で、それらは指揮者のマインドで書かれてい

ます。マーラーの指揮者としての経験に基づく指示を忠実に守って演奏すると、不思議とうまくいくのです。

—マーラーはベートーヴェンやシューマンのスコアに手を加えていますが、その仕事からもマーラーがオーケストラの機能、とりわけ管楽器の性能を熟知していたことを窺い知れます。

—交響曲第3番は、カーチュンさんが優勝を果たしたグスタフ・マーラー国際指揮者コンクールの課題曲でもありましたね。

—今では私にとって大切な作品となった交響曲第3番ですが、グスタフ・マーラー国際指揮者コンクールにチャレンジする以前は、この作品についてそれほど詳しいわけではありませんでした。第3楽章のポスト・ホルンのソロや、第6楽章のコラールをトランペット奏者として知っている程度でした。交響曲第3番が課題曲だと知ったのはコンクールの3ヶ月前で、それから私はこの作品のスコアを徹底的に研究し、可能な限りたくさんの演奏を聴き、リハーサルや演奏会に立ち会うために貯金を全て使って世界中を飛びまわりました。

—とりわけ、エサベッカ・サロネンのレッスンを受けることができたのは幸運だったと思います。サロネンの指揮者としてのキャリアはマーラーの交響曲第3番から始まったので、この交響曲は彼にとっても大変思い入れのある作品のようでした。この作品を指揮したことのない私に、サロネンは演奏上の注意すべき点を丁寧に教えてくれました。このコンクールとその準備期間が私の指揮者としての土台を形作っています。

—全6楽章からなる交響曲第3番は、演奏時間が100分にも及び、ニーチェやキリスト教の思想が複雑に絡み合うなど、やや全体像が掴みにくい作品です。この作品を楽しむためのヒントがあれば教えてください。

—この交響曲のテーマは「神による世界の創造」です。第1楽章は夏であり、そこで天地の始まりが描かれます。第2楽章では植物が芽吹き、第3楽章では鳥や動物たちが姿を現します。第4楽章はメゾ・ソプラノによる謎めいた歌曲で、ここで初めて人間が登場します。そして第5楽章で天使たちの合唱が響きわたり、第6楽章では愛が語られるのです。特定の宗教は示されていませんが、それは神による永遠の愛と言えるでしょう。このように、交響曲第3番は楽章が進むごとに高い次元へと昇っていくのです。そうしたイメージが、この交響曲を聴くうえで

—カーチュンさんは休日に自然のなかで過ごすこともありますか?

—私の故郷シンガポールは、小さな国であると同時に眠ることのない大都市でもあります。私はその喧騒のなかで生まれ育ちました。ですから、ドイツに留学したとき、夜9時には街が静まりかえってしまうことにとっても驚きました。あまりの静けさにならなかつたほどです。また日曜日にはほぼ全ての店が閉まってしまうこともカルチャーショックでした。週末になるとドイツ人たちは街を離れ、スポーツやハイキングを楽しみます。今では私も夜の静けさや自然のなかで過ごす休日が好きになりました。日本の家がある湘南でも、波の音や蝉の鳴き声などに囲まれて暮らしています。

—最後に日本フィルのファンへ向けて、新しいシェフからのメッセージをお願いします。

—メゾ・ソプラノの山下牧子さんとは今回が初共演となりますが、山下さんが素晴らしいマーラー歌いであるという評判はいろいろな方から聞いていますので、一緒に演奏できるのがとても楽しみです。トップレベルのオーケストラ、歌手、合唱団とともに、交響曲第3番を最高のクオリティでお届けします。

—定期会員のなかには私が生まれる前から、日本フィルのコンサートに通い、その活動を支えてくださっている方もいらっしゃいます。そうした方々に喜んでいただけるよう、首席指揮者として全力を尽くしていくつもりです。新しいシーズンをぜひ楽しみにしてください。

助成:



文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術等総合支援事業(創造団体支援))
独立行政法人日本芸術文化振興会

文化庁
Agency for Cultural Affairs
Government of Japan